

平成26年度後期学校評価 分析結果・考察

①学校生活 「楽しく学校へ行っている」

全体的には大きな変化は見られませんが、児童の「あまり思わない」が若干増加しています。このことは、前期の結果の変化からみて、⑥授業改善「勉強はよくわかる」と相関関係にあると考えています。（詳細は、⑥授業改善をご覧ください）もちろん、学習内容が難しくなったことだけが、「あまり思わない」の増加の原因ではありません。日頃、子どもたちと接する中で、「子どもたちの出す小さなサインを見逃さないこと」、「教職員間での情報共有をすること」など、全教職員で楽只小学校の子どもたちを見守ることができているかを検証し、徹底していきたいと思います。

保護者の評価については、「思う」の割合が10%高くなりました。運動会や学芸会などの大きな行事はもちろん、授業参観にもたくさん来ていただき、子どもたちが一生懸命に頑張る姿や笑顔を見ていただいての評価だと思います。また、今後も学校行事以外の日常の子どもたちの様子は、HP等で発信していく考えています。

②ルール 「学校のきまりやルールを守る」

児童の「思う」「やや思う」の割合は、90%近くになっています。また、全国学力・学習状況調査やジョイントプログラムのアンケート結果からも規範意識については、高い結果が出ています。普段の学校生活の様子からも、チャイムでの行動や清掃活動を最後まできちんとすると、規範意識の高さがうかがえます。

保護者の方へのアンケートを初めて実施しましたが、「思う」「やや思う」の割合は、85%と高めの結果が出ています。各家庭のしつけが学校での規範意識とつながっていると思われます。

今後も学校と保護者・地域と連携して子どもたちの規範意識を育てていけるよう、ご協力よろしくお願いします。

③話を聞く 「先生や友だちの話をしっかりと聞く」

児童の「あまり思わない」の割合は、約14%になっています。前期は約16%だったので、あまり変化はありませんでした。そこで学年別の内訳をみると、前期・後期ともに1～3年生の回答に「あまり思わない」が多く見られ、保護者も同様の傾向が見られました。このことは、低学年期に、学校でも家庭でも、「人の話をしっかりと聞く」ということを指導されて、子どもたちも、そのことをきちんと意識していることの表れだと考えられます。

④人権 「友だちを大切にしている」

児童の「思う」の割合は、ほとんど変化ありませんでしたが、「あまり思わない」の割合が、10%以上減少しました。子どもたちの、「友だちを大切にしている」という気持ちが高まったことを大変うれしく思っています。夏休み以降、運動会や学芸会といった大きな学校行事があり、それらの取組を進める中で、友だちと協力し、成功体験を重ねたことが、今回の結果につながったのではないかと思います。今後も、引き続き「自分自身の言動が、友だちを大切にすることにつながっているのか」ということを意識させるとともに、普段の学級集団作りの中などで、子ども相互のつながりを支援していきたいと考えています。

⑤自尊感情 「先生たちから大切にされている」

保護者の「あまり思わない」の割合が10%以上減少し、「思う」の割合が14%増加しています。①学校生活の項でも書きましたが、学校行事や授業参観に来ていただき、子どもたちの様子を見ていただいての結果だと考えています。

しかし、児童の「あまり思わない」「思わない」の割合は、残念ながら前回とあまり変化がなく、「思う」の割合が10%減少しました。学年別にみると、高学年での「思う」の割合が低くなっています。多感な時期にさしかかっている子どもたちに対して、大人の些細な表情や言葉がけなどに、配慮が足りなかつたのかもしれません。

⑥授業改善 「勉強はよくわかる」

大きな変化はありませんが、前期よりも「あまり思わない」の割合が若干増加しています。学年別に見てみると、低学年での割合が高くなっています。また、学年を問わず、「あまり思わない」と答えている児童が、①「楽しく学校へ行っている」の項でも「あまり思ない」と答えているということが分かりました。

算数科の学習で考えると、『くり上がり・くり下がりの計算』や『かけ算（九九）』など、低学年の子どもたちが躊躇やすい単元は、後期の学習内容に含まれています。これらの低学年の学習は、算数科の学習の基礎となる部分です。チャレンジタイムや楽々子タイムで、基礎基本の定着を丁寧に取り組んでいき、課題解決につなげたいと思います。また、今回の分析から、「学習理解と学校生活との相関関係」が明らかになりました。このことを来年度以降の指導に生かしていきたいと思います。
(授業改善のための若手教員育成授業研究や管理職による授業参観・アドバイスなど)

⑦家庭学習 「宿題などの勉強をきちんとしている」

児童・保護者ともに「思う」「やや思う」の割合は、変化はありませんが、少し細かく見ると、児童の「思う」の割合が減り、「やや思う」が増えています。それに合わせて、保護者の「やや思う」が減り、「あまり思わない」が増えています。しかし、同時に「思う」の割合も大きく増えています。中学年以上で取組を始めている『自由学習』について評価していただいているものだと思います。前期の結果分析でも触れましたが、学習内容を定着させるには、家庭での学習習慣を身につけることも重要です。（全国学力・学習状況調査の報告書の中でも、家庭での学習習慣と平均正答率の関係が見られるといわれています。）現在、『楽只小学校版 家庭学習の手引』を作成中です。家庭学習の時間の目安や自由学習の内容の例などを提示しますので、是非参考にしてください。

⑧生活習慣-1 「早寝、早起き、朝ごはん」は守られている

前期の「思う」「やや思う」の割合と、大きな変化はありませんが、児童・保護者ともに、若干減少傾向にあります。前年度の後期と比べると、改善していますが、他の評価項目と比べると、評価の低い項目となっています。また、児童を学年別の割合で見ると、前期とほぼ変化がないことから、おそらく、良くも悪くも生活習慣が固定化していると思われます。先日の『ほけんだより 3月号』でもお伝えしていますが、1月に実施した『サンサンさわやかウィーク』の結果から、5日間、早く寝ることができた児童は、わずか 14%（7人）でした。学童期の子どもの睡眠時間の減少は、集中力の低下・眠気・易疲労感などをもたらすといわれています。今一度、子どもたちの安定した生活習慣の定着に、ご協力よろしくお願いします。

⑨生活習慣-2 「きちんとあいさつする」

児童・保護者とともに、変化はありません。前期の評価も含め、児童の「思う」「やや思う」の割合と、保護者の「思う」「やや思う」の割合の差が、20%以上あります。子どもたちの様子を見ていると、来校者の方には、元気よく自分から挨拶をしています。また、前回の学校運営協議会の中でも、「以前よりも児童館等で出会ったときに挨拶できるようになっている。」という意見をいただいています。一方で、一旦、校外学習や部活動の練習試合等で学校外に出ると、なかなか自分たちから挨拶することができていません。つまり、子どもたちにとって帰属意識のある場所では、積極的に挨拶をしているので、子どもたち自身の評価は高いが、地域で出会われる保護者の方から見れば、「まだもう少し」という感があるのではないかでしょうか。

楽只小学校の子どもたちが、どんな場所でも、いつもの自分らしさを出せる力をつけていけるようにしていきたいと思います。また、自由記述の中で、「先生や大人たちがあいさつをしないのに、子どもたちが出来るとは考えられない」というご意見もありました。わたしたち大人が子どもたちの見本となれるように、子どもたちへの声かけや挨拶を引き続き、よろしくお願ひします。

⑩健康・保健 「自分の健康に気をつける（ケガ・病気・食事など）」

児童・保護者ともに今回新設した項目です。本校では、月に1回『ほけんの日』を設定し、養護教諭の用意した資料をもとに学級担任が保健指導を行っています。また、発育測定の際などにも、養護教諭が保健のミニ指導を行うなど、定期的な保健指導を継続しています。これらの指導を通して、子どもたちがどれくらい自分の健康について意識しているのか、また、家庭での実践はどれくらいできているのかを確認するために、新たに設けました。

児童の「思う」「やや思う」の割合は、約80%と高く、学校での指導内容を一定意識できているようです。しかし、保護者の「思う」「やや思う」の割合は、約60%程度となっており、⑧「早寝、早起き、朝ごはんは守れている」の評価と関連させてみても、家庭での実践の割合は低いようです。

小学校における保健教育では、「実践的に理解する」ということがねらいに挙げられます。学校で学んだ知識や技能を生かす場が、家庭です。今後、健康的な生活を実践し、定着させるためにも、家庭と連携していきたいと考えていますので、よろしくお願ひします。